



Toho University

赤血球製剤の有効期限延長による廃棄血削減効果の検討 ～期限切れ廃棄状況の後方視観察による シミュレーションスタディ～

厚生労働科学研究

「地域における包括的な輸血管理体制構築に関する研究班」

平成30年度全国大学輸血部会議
技師研究会
リンクステーションホール青森
2018年10月18日

目的：

実際に発生した**廃棄RBCを後方視的に抽出**して架空の有効期限延長を最大21日まで設定し（仮想有効期限延長日数）、延長によって転用可能となった製剤割合（転用使用率）との関係性をシミュレーションすることによって、一定の転用使用率を得るために必要な有効期限延長日数を割り出す。

血液型、施設規模、RBC使用量、施設特性が転用使用率にどのように影響するかについて併せて検討を行う。

対象期間：

2017年4月1日から2018年3月末の期間に調査対象医療施設で有効期限切れを理由に廃棄となった全RBC、および期限切れRBC発生日から21日間に使用された同型RBCを対象とする。



方法：

- 1) 施設情報に関する調査**
- 2) 廃棄RBCの抽出**
- 3) 血液型別・廃棄日別の廃棄RBC総単位数算出**
- 4) 同型RBC単位数の日毎集計**
- 5) 転用使用率の算出**
- 6) 転用所要日数の算出**
- 7) 血液型・施設特性による影響**



研究責任者：

埼玉医科大学国際医療センター 輸血・細胞移植科
石田明

研究協力候補者：

東京医科大学八王子医療センター	田中朝志
東邦大学医療センター大森病院	奥田誠
札幌医科大学附属病院	遠藤輝夫
熊本大学医学部附属病院	福吉葉子
青森県立中央病院	北澤淳一
佐賀大学病院	末岡榮三郎
東京都立墨東病院	藤田浩
長崎大学病院	長井一浩
茨城県立中央病院	大越靖
筑波大学附属病院	長谷川雄一



研究事務局：

埼玉医科大学国際医療センター輸血・細胞治療部

住所 〒350-1298 埼玉県日高市山根1397-1

電話 042-984-4386 FAX 042-984-4387

担当 埼玉医科大学国際医療センター輸血・細胞治療科
石田明、小林清子

e-mail aishida@saitama-med.ac.jp

